

情造改草

フロント
改題

社公主義同盟東京教育大学生部情宣機関

No. 16

文学生大会に結集し本部封鎖にむけて戦列を強化せよ！

理教の学友は文学部と連帯し授業放棄→ストライキで立とう！

登校された教育大学の学友諸君、文学部の幹部スライキー、他の学部での開拓の高さより、更に文学院さうざく全学部での開拓の高さ計上事後試験という中で、調査費計上に抗議し、その挽回をめざすべこの学友たゞ、今何をほほべきかが尚め此の通りだ。我が統一社公主義同盟教大支部は、勝利にむけて我々の斗争の方向を掲げたいたいと考える。

本部封鎖で評議会と対決せよ！

文学院の四日間にわたりスライキ斗争は、不斷に坐卓化への転換と、对評議会への対決の方面をほらさながらも現在一つのゆきがきりをみせてゐる。しかし内がら文部省は急に坐卓局での事後試験の見成によつて調査費計上は學内での調整をほほ終えようとしている。このような構造と開拓に対する急に坐卓を導くならば、オ一に坐卓ストを実現する二と、そしてそれが早急に達成されば、文学院がその攻撃線を押しつらうや、对評議会との対決点へと高めていく二と、これ以外にありえぬ。そして我たゞから現在の主体の状況はオ二オ三針が最も現実的である二とを示しこゝで高め、敵に対し我々の攻撃線を接近せしめる二と、之山が現時点での本部封鎖の意義である。之山は事ム井能のスチンガによる直接的打撃を理解とした、我々の対部放逐会要求、調査費計上阻止の強い意志の更力による貴重にせねばならぬ。

文学部ストライキの内戻を強化せよ！

勿論我々は本部封鎖といふ斗争形態によつて展望が切り開かれうるなどとは考える二とがさきなり。むしろ問題は本部封鎖に康利的表現される我々の斗争の内戻にあるとしむけりばらう。すでに昨年のストライキ斗争が六一の決死に対する道義的根柢に出発したからもそれが結果問題に結んでしまひといふ限界をもつてゐることが

らかにする必要があるのだ。不適や窮屈の中にはこそ要求を実現化し、体現化し、それが太學・筋肉をめぐる強占の政策との廻戦的矛盾を具体的に明らかにする中で斗争への確信と精神に対する鮮明な自信を形成しよう。我々が現在自らの要求を体現化政治化しえこむに二と自身が、いままでの我々自治思潮の根元へ取組みとともにその多様な難題を体現化する中で敵と対社会的対決の構造を認めしていく、どうう大學革新斗争の本在による自否がねらう。即ちに各クラスで要求の体系化を行ひ、それを精神的組織に媒介せ、せつて端的にスローガンに算定しよう。(一科)学技術の強占への反対を実現せねばならぬ。即ちに各クラスで要求の体系化を行ひ、それを精神的組織に媒介せ、せつて端的にスローガンに算定しよう。(一科)教育の一画化をもたらす流移動反対、大學自治から學生の課外と校園集中化、自らの脆弱性への弱音であるにせよ、現在の斗争の中でニシニの把界を突破せねばならぬ。即ちに各クラスで要求の体系化を行ひ、それを精神的組織に媒介せ、せつて端的にスローガンに算定しよう。(一科)学技術の強占への反対を実現せねばならぬ。即ちに各クラスで要求の体系化を行ひ、それを精神的組織に媒介せ、せつて端的にスローガンに算定しよう。(一科)教育の一画化をもたらす流移動反対、大學自治から學生の課外と校園集中化、自らの脆弱性を保護しようし、現在の大學の教學内容に対する批判と言葉から行動へと轉じて、學生自治の圧制的複数性を確立しうる所である。

以上より三点にふまえての本部封鎖に上を実現しよう。自主討座、クラス研究会は活動の展開の中で自若能力の全般的な向上を実現しよう。しかも精神的・物質的・多様な属性を保護しようし、現在の大學の教學内容に対する批判と言葉から行動へと轉じて、學生自治の圧制的複数性を確立しうる所である。

本の学友を斗争へと参加させていくことが志向の
だ。

田青系諸君の白和見方針を粉碎せよ、

しかしながら我が同盟を始め、先進的学友、クラ
スより提起ナリ。この本部封鎖方針に対する、二の回一貫して

ストライキ斗争を放棄し続けた田青系諸君によ
り被罵恥ヲ蒙リ、「批判」が提起されたり。それ

は本部封鎖は他学部の学友をはじめ文理部の学友を
も離反させる。計算誤導入をもゆく。どうもウエ

おり「全員スト」をたどにそりかえすやうと云
うものである。まず彼らの「全員スト」方針は構成で
具体的な問題を次々こころが故に「時空をニえた

眞理」に至らない。そして「多くの学友を離反さ
せる」なる批判は次の点でマナカシである。オーヒ

シの前提として「本部封鎖リハネエリ分争の圓融は
行劫」なるイメージをあらかじめ暗黙のうちにあり

てゐる。これが我々の異現しようとしている
る本部封鎖とは、先にも述べた如く専生自若能力の、

全般的向上と大眾性の保持を内容としたものであり、
單に形態のみのレベルアンフとは明確に異はる。

ある、我々が二のようは内密をもつた本部封鎖を告
難をめりこえて異現する二事によつて、勝利の意望

をきりしらくなれば、必ずや他学部の学友をも結集
しうるであらう。オニに彼らは「学友を離反させる」

としはから、東は本部封鎖に反対する二事によつて
離反を促進しこいる、という二事である。本部封鎖

を主張してゐる部分と、それに反対を想ひこころる部
分にクサビをつち二事によるのは、せむらぬ民青系

諸君なりた、彼らは自らの論理をあかすために「離
反する学友」をつくりだしてしまつたのだ。今こそ

離反をめりこむた、彼らは自らの論理をあかすために「離
反する学友」をつくりだしてしまつたのだ。今こそ

我々は本部封鎖戦勝に確信をもち、田青系諸君の白
和見方針を断固として粉砕せよ! 尾青系諸君の白
和見方針を断固として粉砕せよ!

諸君、更に斗ひを展開し、民青系諸君の妙思をほむ
かけこ本部封鎖戦勝のもと、全員ストライキへ合流

しよう、大闘占拠へむけて更に前進しよう、

全員ストライキ斗争との連絡を!

二の回半席で自身のヨリが爆発しこいる、全學連
の木在は中で、二山らの斗争は個別的で懸念されさ
るを得ない状況にある。だが我々は斗ひの中で二そ
連絡をからとり、一矢の斗ひの前進を誓ひ合おうと
はいかず、そして全般的な専生の団結の力を更に学

西に發流させ勝利にむけてバク進しよう、東大・白
大・慶應大・東洋大の専友と連絡して斗あう、
専める位置の比重を考えるならば、他の移動研究

團にあらこつている研究者との連絡により、その
能力を教育大の移動研究にかけて結果していくこと
はさわめて重要である。その中で我々のヨリが全學
連絡はおこと占める意義と研究者をはじめとする
研究者をおくるヨリにおこと占める意義を確認し、斗
いの決戦を更に奮めよう。

スローガン

六、二〇評議会決定白紙撤回、

調査費計上阻止、

MP運動時解散、

競争移動粉碎!

内造改革創刊局 総社同教大支部

国内情セ

科学技術情セ

教育情セ

経営移動阻止斗争情拓

大學革新論

クラス活動論

尼としての学生運動論

平和共存—新たな国際秩序の形成と戦争防止

新社同教大支部発行

視点